

校外学習を中心とした栗東市立小学校の環境教育実践と支援方策

— 学校外の団体・施設等との連携を視野に入れて —

高宮 弘(社会人コース)

1. はじめに

環境問題を解決するためには問題の因果関係、悪化防止策を知り、活動を行うのに多くのことを学ばなければならない。快適な暮らしを求め続ければ、意識的ではないにしろ、地球全体が破綻に向かっていく。それを防ぐために、議論を重ね、環境意識を育て、我々の生活を地球に優しい方向に変化させて行かなければならない。そして、それを持続させるために、未来を引き継ぐ子供たちに、学社一体となって、その芽を育てる活動をして行かないといけないと考える。本課題研究では、そのために、私たちに何が出来るか、との思いから、栗東市内の小学校及び環境教育支援団体・施設が子供たちを対象にどのような活動を実施しているかを調べ、私たちが出来る支援の方法について考察する。

2. 調査の方法と対象

本課題研究では、聞き取り調査を行った。対象は、栗東市教育委員会、市立小学校（9校）、市内の環境教育支援団体（4カ所）とした。

3. 調査結果

栗東市教育委員会では、環境教育に充てる時間・予算の問題、教師相互の協力体制、学校外の支援ネットワークが重要課題として挙げられた。

栗東市立小学校調査結果では学年毎の活動として、第2学年では、「栗東自然観察の森」を訪問し、植物や季節による自然の変化を体験的に学習している。第3学年では、飼育栽培活動、雨水タンクから水はどこからの考察、等が見られた。第4学年では、「やまのこ」の他に、里山体験、水環境館の見学、環境センター見学、歴史博物館での昔の暮らし体験も見られた。第5学年では「うみのこ」の他に、川の形成学習、田植体験、工場の汚水処理見学も見られた。全学年を通しての活動では、講師による琵琶湖環境学習、地域の人と里山活動、近隣の山の登山、川の探検、旧東海道の学習、農園の運営、川の清掃体験、等が見られた。この様な中で「課題・意見等」として、「意欲はあるが仕事が忙し過ぎる」「教員の知識を増やす機会不足」「学社連携や支援のネットワークの必要性」「市バス廃止による移動性の不足」といったことが挙げられた。

環境教育支援団体（4カ所）側からの課題としては、来訪人数が多い時のスタッフ数の確保とその専門性の問題、担当教員の温度差によって連携がスムーズでない面、専門知識のあるスタッフの長期雇用の問題が挙げられた。

5. 考察

本調査の結果から、栗東市立小学校では、自然環境に関する環境教育活動が多く行われそれらが学校と学外の団体・施設等とが連携した取組みであることがわかった。しかし、課題もあって、特に、環境問題に関する教員の知識の向上や、連携を深めるためのネットワークの不足が課題であることも明らかとなった。私としては訪問した団体の活動に参加し、学校内での環境出前講座の推進、学内の豊かな自然を生かした観察会の推進、等について、栗東市が推進している市民参画推進制度を活用し、関係者と共に努力していきたい。